

表)。やはり播磨平野にも割合いそうである。

## 芦屋市内におけるクロコノマチ ヨウの記録

西 隆 広

兵庫県下に定着しつつあると思われるクロコノマチ ヨウ *Melanitis phedima* CRAMERの芦屋市内における記録をとりまとめて報告する。

私がかって芦屋市内の蝶をとりまとめた時点<sup>1)</sup>では本種は得ておらず、1例の報告<sup>2)</sup>以外に接していなかった。その後1985年に市内で複数の記録を得、また芦屋市教育研究所指導主事の古市景一氏からは氏が芦屋市立山手中学校において教鞭をとられていた間に発表された報告<sup>3)</sup>とその後得られた記録を御教示下さり、以下に示す計4年の記録を得た。

- ① 1 ex., 目撃, 24. X.1980 芦屋市三条町(山手中学校) 古市景一<sup>3)</sup>
- ② 1 ex., 採集, 1. IX. 1983 芦屋市三条町(山手中学校) 古市景一
- ③ 1 ♀, 採集, 24. VII.1985 芦屋市三条町(高座川) 西 隆広
- ④ 1 ♀, 採集, 31. VII.1985 芦屋市三条町(高座川) 西 隆広
- ⑤ 幼虫多数確認, 14. IX~6. X.1985 芦屋市三条町(高座川) 西 隆広
- ⑥ 1 ex., 目撃, 23. IX.1985 芦屋市奥山(高座滝付近) 西 隆広
- ⑦ 1 ♀, 採集, 26. IX.1987 芦屋市奥池南町(芦屋川上流) 西 隆広

1985年は複数の記録を得ているのでその内容を示す。

③、④の記録はいずれも夏型で、③は餌付けによって昼間も同地域に出没するようになった猪が、私の姿を見て藪の中に逃げ込んだ時に飛び出して来たものである。また④は夕立の後、薄暗い谷筋を低く飛んでいたものである。

⑤は高座川の岸のススキで発見したものでその内計4頭を採集、10月14日~10月17日の間に全て羽化した。

⑥は秋型で発生確認地からやや離れた高座滝付近のアラカシの樹液に来ていたものである。発見したのは午前7時過ぎ、曇天で非常に暗く、一度は確認できなかったが再度見て発見したものである。写真撮影を行ったところストロボ光に驚いたのか林内に姿を消した。新鮮な秋型であった。

1985年の発生をみると、⑤の間に見た幼虫の齢数はばらついており、⑥の目撃時においてもまだ若齢幼虫がみられたことから、複数の母蝶が長期間に亘って産卵したと考えられる。すなわち8月に採集した2頭はいずれも当地において羽化した一群に属し、2化目の夏型であり、同年春季からすでに当地に生息したと考えられる。

当地では10月6日まで若齢幼虫を確認したが、10月10日には全く姿を消した。原因は不明である。

ところで1980年から1985年の記録は全て高座川沿いであり、少なくともその間、経年的な発生が繰り返されていたと考えられるが、その後確認できていない。一方1987年の記録はやや離れている。分散しつつ定着を続けているのであろうか。

当地方では1979年頃からナガサキアゲハの定着をみたが、ナガサキアゲハは昼間、さかんに飛翔し訪花するのでその確認は容易であった。一方本種は日中はほとんど飛翔せず、薄暗い林内などに静止しているのでその発見は容易でなく、生息密度が低いままで推移する場合は各年での発生確認の困難が予想されるが今後の記録に興味もたれる。

末筆ではあるが、本報告の作成に当たり、貴重な記録を提供された古市景一氏に深甚の謝意を表します。

(参考文献)

- 1) 西 隆広(1984). 芦屋市の蝶、てんとうむし: 28-38.
- 2) 山本広一・吉阪道雄(1960). 兵庫県産蝶類目録(3)、兵庫生物、4(1):37-44,46.
- 3) 古市景一(1983). 芦屋市の蝶相について、研究集録、芦屋市立教育研究所: 23-30.

## ヒオドシチョウの秋季記録

西 隆 広

ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas* DENIS & SCHIFFERMÜLLER は阪神間では6月上旬に羽化し、その後約1箇月は低山地帯でよく姿を見るが、7月上旬には姿を消しそのまま翌年の越冬個体まで姿を見せないのが通例である。

文献によれば、本種の秋季観察例もある<sup>1)</sup>が多いものではない。

私は10月に次の記録を得たので報告する。